令和６年度　東村山市立学校 自己評価シート【２月】

東村山市立久米川小学校　校長　小板橋　悦子

| 学校の教育目標<br>（育成を目指す資質・能力） | 人権尊重の精神を基盤に、社会の形成者として、自己と他者を大切にし、創造的に社会を生き抜く児童の育成をめざし、次の目標を定める。<br>輝く　わたし　ひびき合う仲間　心豊かに　～〇やってみよう　〇つたえよう　◎ねばろう～ |
|---|---|
| 目指す学校像（ビジョン・ミッション）<br>学校は子どものためにある。私たちは、子どもが自らの力で伸びようとする過程寄り添い、自己実現できるように指導し、支援する重要な役割を担っている。その重責を自覚し教育活動にあたる。<br>子どもが、「この学校で学んでよかった」、保護者や地域が「この学校に通わせてよかった」、教職員が「この学校で働くことができてよかった」と思える学校でありたい。 | |

| その他<br>特記事項 |
|---|
| 保護者・地域との協働<br>・学校運営協議会を年６回実施し、教職員との連携・協働体制を確立し、よりよい学校づくりを目指す金脇とする。<br>・学校運営協議会委員、地域コーディネーターによる学習はじめのあいさつ運動を継続する。<br>・学校便り、学校公開、ホームページ、連絡アプリなどにより本校の教育活動を積極的に発信。家庭及び学校と地域が連携し、健全育成のための環境を充実させる。<br>・地域コーディネーターによる地域人材を活用した教育活動を積極的に推進する。<br>・開放する幼稚園、保育園と学校行事や子供の作品交流、就学前児童と１年生との交流等により、子供たちの育ちや学びをつなぐ取組を推進する。<br>・体育健康教育推進校としての取組が保護者や地域に広がるよう、授業公開・保護者会・講演会等で発信する。 |

| 【目指す学校像】 | 【目指す教師像】 | 【目指す児童・生徒像】　人権尊重の精神を基盤に、社会の形成者として、自己と他者を大切にし、創造的に社会を生き抜く児童の育成をめざす。 |
|---|---|---|
| ①児童が学ぶ楽しさや人と関わる喜びが得られる学校<br>②保護者・地域と学校とが相互にパートナーとなり児童を育てる学校<br>③教職員が学びを支援する伴走者として日々成長できる学校<br>④ | ①「学び続ける教師」として授業力の向上を図る。計画的にOJT を推進し、互いに学び合う中で、教師力の向上に努める。<br>②事故・事件・保護者対応は初期対応を最重視し、管理職への報告とともに、組織を活用し、迅速かつ的確に進める。<br>③コンプライアンスリーダーを中心に教育公務員として服務の厳正に努める。<br>④ライフ・ワークバランスの観点から、仕事の優先順位を付け、オンタイムとオフタイムのスイッチをもつ教員をめざす。 | ①〇やってみる子ども（自ら学び続け協働し合う）<br>②〇つたえられ子ども（自他を大切にし助け合い認め合う）<br>③◎ねばれる子ども（心身共に健康で支え合う）<br>④ |

| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 目標達成のための方策 | 取組指標（教職員の取組） | 取組自己評価 | | | | | 成果指標（児童・生徒等の変容・成果） | 成果自己評価 | | | | | 成果指標（保護者の理解・成果） | 成果自己評価 | | | | | 中間申告（分析・修正案） | 最終申告（分析・改善策） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 6月 | 11月 | 2月 | 評語 | | | 6月 | 11月 | 2月 | 評語 | | | 6月 | 11月 | 2月 | 評語 | | |
| 学習指導 | ・３つの資質・能力を身に付けるため、児童が自ら主体的に考え判断し、学びが深まる授業を目指す。<br>・指導観の転換を図り、ティーチャー・ファシリテーター・コーディネーター・ジェネレーターなどの教師の多様な役割を意識した授業改善を実施していく。<br>・タブレット型端末を日常的に「学習用具の一つ」として使いこなし、調べる・まとめるだけでなく、学んだことを発信できる力を身に付けるようにする。<br>・自分の身体や健康に興味をもち、体力の向上を図るなど健康的な生活をすることができる児童を育成する。 | ・主体的・対話的で深い学びを目指した、児童が「分かる授業」を実践する。<br>・授業において、タブレット型端末を用いてデジタル教科書を活用するなど、学年の発達段階に応じて積極的に取り入れていくこと。<br>・楽しく運動することができるよう、環境を整備するとともに運動の日常化を図る。 | 日々の授業のなかで、伝え合い、学び合いの場の設定などの言語活動の充実を図る。<br>すべての授業において、「ねらいをつかむ」「学び合う」「振り返る」を大切にした授業を推進する。 | 日々の授業の中で、意図的かつ効果的な「伝え合い」「学び合い」の場を設定する。「ねらいをつかむ」「学び合う」「振り返る」の流れを授業に取り入れる。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 児童調査により、「友達の考えを聞いて新しい気付きがありましたか。」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 保護者調査により、「学校の授業では、お子さんが自分で考え、分かるようになったことやできるようになったことがありましたか」の項目で肯定評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 引き続き「ねらいをつかむ」「学び合う」「振り返る」を大切にした授業を進めていく。 | 体育健康教育の研究を通し、子供主体に重きをおいたこと、「学び合い」や「「思考」の過程を大事にしたことが、「ねらいをつかむ」「学び合う」「振り返る」を大切にした授業を意識することに繋がった。 |
| | | | | | 達成 | | 100 | 100 | | | | 達成 | | 89 | 90 | | | 達成 | | 90 | 95 | | |
| | | | 月1回の久米川タイム・夏季休業中の補習教室などでの学び残しやつまずきの克服、さらには算数科の授業では得意分野を伸ばすための発展学習など個に応じた学習機会を提供し個別対応の充実を図る。 | 東京ベーシックドリルなどを活用し、個人の実態を掴み算数や国語の基礎学力を伸ばしていく。月1回の久米川タイム・夏季休業中の補習教室などを行う。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 東京ベーシックドリルの正答率を９０％以上にする。復習プリントを活用し学び残しやつまずきを克服できるようにする。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 東京ベーシックドリルの取組みについて、保護者会や学校ホームページ等で保護者に周知する。 | 目標 | | | | | 算数や国語の基礎学力を伸ばす取り組みは、全教員で行っている。ベーシックドリル診断テストの正答率が７８％だったので、今後も復習プリントを使って苦手分野を復習していく。 | 東京ベーシックドリル診断テストA第２回は目標８０％のところ７８％でしたが、その後、学年ごとに苦手分野を復習し、９０％になった。今後も復習プリントに取り組んでいく。 |
| | | | | | 達成 | | 100 | 100 | | | | 達成 | | 78 | 90 | | | 達成 | | | | | |
| | | | 休み時間の外遊びを奨励、体育館遊び計画的な実施、体つくり集会、運動遊びのための環境整備を行い、児童自ら健康の保持増進と運動の日常化に取り組めるよう工夫する。 | 朝遊びやロング昼休みを設けて、子供たちの外遊び時間の充実を図る。<br>体つくり集会では、11種類の遊びを経験させ、日常の遊びへと繋げていく。<br>「～したい」という児童の声を、日常の遊びや運動の仕掛けに繋げ環境整備を行う。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 「学校や普段の生活で楽しく遊んだり運動したりすることができていますか。」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 本校の休み時間や体つくり集会の取り組み等についての様子を学校便り・学年便り・ホームページ等で知らせる。 | 目標 | | | | | 朝遊びやロング昼休み、体つくり集会などによる遊び時間の充実により遊んだり自由に過ごしたりできることを児童が実感している。「～したい」という児童の声を、日常の遊びや運動の仕掛けに繋げ環境整備に努めた。 | 「体を動かすことが楽しい」と答えた児童、「運動は自分にとって大切」と答えた児童が増加した。様々な取組から、健康の保持増進や運動を子供の日常へつなげることができた。 |
| | | | | | 達成 | | 100 | 100 | | | | 達成 | | 91 | 96 | | | 達成 | | | | | |
| | | | 授業中の交流活動や表現活動、知識の定着を図る復習等に、タブレット型端末を効果的に活用する。 | タブレット型端末を活用し、タブドリLive!などの個々の学習を補足する使用方法を定着させる。<br>自己と他者の考えを交流させたり、整理させたりする学習等でタブレット型端末を学年に応じて積極的に取り入れる。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 「タブレット型端末を使うことで、学習が分かりやすくなっていると感じることがありますか。」の項目で、肯定評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 保護者調査により、「タブレット型端末を学習に取り入れていると感じていますか。」の項目で肯定評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | A | ジャムボードからFigjamに移行したことで、教員も手探りの状態で活用していることが考えられる。効果的な活用方法を共有するGIGA研修を行い、タブレット型端末を活用しやすい環境を整える。 | 学習が分かりやすくなっていると感じている児童が全体の９０％となったことから、授業の中でタブレット型端末を有効活用できていると考えられる。一方保護者への調査では目標を達成していないため、より保護者に理解が得られるような取り組みや周知が必要である。 |
| | | | | | 達成 | | 70 | 94 | | | | 達成 | | 88 | 90 | | | 達成 | | 76 | 81 | | |
| | | | 生活習慣の改善を図るため、毎月の保健だよりを用いて生活を見直したり、保健体育や食育の授業を通して、健康づくりに自ら進んで行える児童を育てていく。 | 毎月の保健だよりを朝の会等で話題に取り上げる。また、食育や保健体育、健康教育の授業を通して、自分の健康づくりについて関心をもたせる。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 「からだ元気ウィーク」の取組や結果を元に児童に指導し、健康な体作りを促進する。アンケート肯定率を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 「からだ元気ウィーク」の取組や結果を保護者に知らせ、児童の健康に注意するように促す。 | 目標 | 1回 | 2回 | 3回 | 0 | 様々な面から健康について指導や取り組みを行ってきた「からだ元気ウィーク」の結果を元に、５年生から全校児童へ遊び啓発を行った。 | 体育健康教育の研究を通し、健康づくりに自らすすんで取り組める児童の育成に努めることができた。 |
| | | | | | 達成 | | 100 | 100 | | | | 達成 | | 95 | 95 | | | 達成 | | 2回 | 3回 | | |
| 生活指導・進路指導 | 【児童理解】…教科担任制のよさを生かしながら、教員が学年全体、学校全体の児童に寄り添う意識をもつ。<br>【いじめ・不登校】…差別や偏見を許さない毅然とした指導を行い、児童にとって安全で安心できる、居心地のよい学校を築き、いじめや防止・不登校への適切な支援に努める。<br>【居場所づくり】…学校が子供にとっての居場所の一つとなるようにする。 | ・気持ちのよいあいさつや言葉遣いを身に付けることができるよう様々な場面で指導をしていく。<br>・いじめや不登校を生まないための取組を徹底する。 | 【あいさつ・あたたかい言葉】…全校であいさつを交わし合うあたたかい雰囲気づくりと、効果的なあいさつ運動を行う。「さん付け」を徹底し、ハートフル活動などお互いを認め合う活動を多く設定する。 | 4月、1月の生活目標では「あいさつ」に重点を、10月、11月では「言葉遣い」に重点を置き、全校で取り組む活動を行う。同内容に合わせた図書の紹介や各委員会の取り組みなどで、横断的に連携して取り組む。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 児童調査により、「あいさつは大切だと考え、すすんでできている」及び「友達と話すときに<さん付け>をし、あたたかい言葉を使っている」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 保護者調査により、「本校は、気持ちのよいあいさつ・あたたかい言葉を生活指導の重点としています。ご家庭でも気持ちのよいあいさつ・あたたかい言葉がけを大切にしていますか。」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 教職員、児童、保護者のアンケートからあいさつや言葉遣いを意識できていることがわかる。よい伝統として引き続き大切にしていきたい。 | 「あいさつ」に関しては引き続き年間を通して取り組んでいきたい。「さん付け」来年度、児童の意見も受け止めつつ、より実態に沿う形で人権意識としての「さん付け」の伝統を残していきたい。 |
| | | | | | 達成 | | 100 | 100 | | | | 達成 | | 92 | 94 | | | 達成 | | 95 | 97 | | |
| | | | 【いじめ・不登校】…楽しい学校づくり、人権意識の徹底による未然防止を軸に、いじめや不登校の芽を探知した場合には組織的な早期対応を行う。教員同士の情報交換を密にしていく。 | 教員間の効果的な連携のために、毎週の生活指導夕会を中心に情報交換を行う。生活指導全体会を年２回、特別支援やコミュニケーションに関する研修会等を年５回以上行う。 | 目標 | 5回 | 10回 | 15回 | 0 | 児童調査により、「先生が話を聞いてくれる」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 保護者調査により、「教師は、子供についての相談に、きちんと応じていますか。」の項目で、肯定評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 児童アンケートでは高評価だが、保護者には学校の取り組みや誠意が一部届いていない可能性がある。お便りや面談、日ごろの電話連絡などでこまめに学校の様子を届けられるよう教員の意識を高めたい。 | 学校への相談しやすい雰囲気づくりを引き続き意識的に継続していきたい。 |
| | | | | | 達成 | 5回 | 10回 | 15回 | | | | 達成 | | 94 | 95 | | | 達成 | | 89 | 91 | | |
| | | | 【居場所づくり】…陽だまりルームの活用、授業や行事、委員会などでの活躍の場などを通して、自己肯定感、自己有用感を高めていく。 | ハートフル活動や、行事の諸活動を通して他者との交流の中で自己肯定感・自己有用感を高める。ふれあい月間を迎える前に、いじめについての認識を全体で確認し、アンケートを通して児童への聞き取りを丁寧に行う。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 児童調査により、「安心して学校で生活できている」「学校で友達と楽しく活動できている」の項目で肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | ふれあい月間について、保護者に周知する。また、保護者からの相談には、真摯に対応する。 | 目標 | | | | | 陽だまりルームも軌道に乗り、課題はありつつも居場所づくりに一役買っている。児童アンケートではおおむね高評価だが、引き続き自己肯定感や安心感を高められる取り組み（ハートフルやけじめある生活）を続けていきたい。 | 児童への関わり方、学級経営などの工夫により、積極的な生活指導を心がけていきたい。 |
| | | | | | 達成 | | 100 | 100 | | | | 達成 | | 89 | 90 | | | 達成 | | | | | |
| 学校運営 | ・保護者・地域との連携を図り、信頼され協働できる学校を目指す。<br>・働き方改革を推進し、教職員にとって働き甲斐のある学校を目指す。<br>・資源を有効活用する。 | ・学校運営協議会委員が主体となった協議進行を促し、学校が行うこと、学校運営協議会委員及び地域コーディネーターが行ことを明確にして、保護者・地域と共に児童を育てる風土を醸成していく。<br>・学校公開、ホームページ等での教育活動の発信により、保護者・地域の理解・協力を得て、教育活動が充実するようにする。<br>・紙媒体での資料配布を極力削減する | 学校運営協議会を年間5回開催するとともに、あいさつ運動など児童と共に取り組む活動を継続する。 | 地域との連携・協働を進め、久米川小学校が目指す教育活動を積極的に発信し、理解と協力を得る。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | 学校運営協議会との話し合いを有益なものとし、地域コーディネーターと教員が協力した取組を５回以上行う。 | 目標 | 1回 | 3回 | 5回 | 0 | | 目標 | | | | | 今年度も、第３回学校運営協議会で、委員と職員との意見交流をした。地域コーディネーターの役割、活動内容について、地域とのつながり意見を交流することができた。 | 全５回の学校運営協議会で、学校の様子や地域との交流について意見交換し、児童のより良い学校生活につなげるための話し合いができた。 |
| | | | | | 達成 | | 80 | 90 | | | | 達成 | | 4回 | 5回 | | | 達成 | | | | | |
| | | | 地域コーディネーターと連携した教育活動を学期に1回以上実施できるようにするとともに、外部人材や地域人材を活用した体験活動の充実を図る。 | 地域人材や外部人材を活用した体験活動を各学年年間５回以上実施する。 | 目標 | 6回 | 18回 | 30回 | 0 | 児童調査により、「ゲストティーチャーと一緒に行った授業は、楽しかったですか。」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 保護者調査により、「交流学習や体験学習を通して、お子さんの心の成長が見られますか。」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | 遠足、生活科見学、水泳指導、家庭科など各学年とも教育活動の様々な場面で、地域の外部の方と共に体験活動を行うことができた。今後も、連携して体験活動の充実を図る。 | 教育活動の様々な場面で、地域の方や外部の方の支援を受けながら体験活動を行うことができた。今後も、地域コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーと学ぶ体験活動を行っていきたい。 |
| | | | | | 達成 | | 19回 | 42回 | | | | 達成 | | 91 | 95 | | | 達成 | | 93 | 94 | | |
| | | | 学校公開や保護者会、学校行事での公開はもちろん、ホームページや連絡アプリによる保護者への発信等によって日常の「久米川小の教育活動の視覚化」を目指す。 | HP・学校便り係を中心に定期的に学校の様子を保護者や地域に知らせ、連絡アプリからも保護者への情報発信を行う。 | 目標 | 6回 | 16回 | 22回 | 0 | | 目標 | | | | | 保護者調査により、「学校が教育活動の様子をわかりやすく、知らせていますか。」の項目で、肯定的評価を９０％以上にする。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | A | 学校ホームページで、各学年や学校行事の様子をその都度更新、学校だより や学年だより、給食だより、ほけんだより 月１回更新している。今後も定期的に保護者や地域に知らせる。ホームページを定期的に更新していることも知らせる。 | 学校ホームページで、各学年、学校行事。給食、保健の内容を月１回以上全36回定期的に更新し、保護者や地域の方へ発信することができた。 |
| | | | | | 達成 | | 21回 | 36回 | | | | 達成 | | | | | | 達成 | | 85 | 87 | | |
| | | | 保護者あての通知は原則連絡アプリで配信する。職員会議等の資料は原則PDFとして専用フォルダに保存し、紙配布を削減する。 | 保護者あての通知は連絡アプリで配信できるように作成する。会議資料はPDFでフォルダに整理・保存し、保存場所を職員に周知する。 | 目標 | 80 | 85 | 90 | 0 | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | 保護者あての通知は連絡アプリで配信し、学校だより・学年だより・保健だよりはホームページにも載せている。会議資料は、PDF化しペーパーレスを進めている。 | 保護者あての通知は原則連絡アプリで配信した。職員会議等の資料は原則PDFとして専用フォルダに保存し、紙配布を削減することができた。 |
| | | | | | 達成 | | 85 | 90 | | | | 達成 | | | | | | 達成 | | | | | |
| | | | 校内研修会を充実し、人材育成を図る。 | OJT研修とGIGA研修を交互に月１回ずつ実施する。必要に応じて、校内研修会を実施し人材育成を図る。 | 目標 | ３回 | ７回 | 10回 | 0 | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | OJT研修とGIGA研修を適宜行い、月１回ずつ校内研修を実施し、人材育成を行っている。 | OJT研修とGIGA研修の内容で、必要に応じて月１回ずつ実施した。その他、体育指導等の校内研修会を適宜実施し人材育成を図ることができた。 |
| | | | | | 達成 | | 11回 | 13回 | | | | 達成 | | | | | | 達成 | | | | | |
| | | | 働きやすい職場となるよう、できることから改善を行っていく。 | 会議や行事の内容を精選し、決められた時間内で行うように計画実行する。行事や授業時数の余剰時数の見直しを行う。 | 目標 | 60 | 80 | 90 | 0 | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | 行事や余剰時数の見直しを行い、改善している。その都度、今年度の反省を行い、来年度の計画に生かしていく。 | 会議や行事の内容を精選し、決められた時間内で行うように計画実行した。行事や授業時数の余剰時数の見直しを行った。来年度に向けてさらに改善を進めていく。 |
| | | | | | 達成 | | 80 | 90 | | | | 達成 | | | | | | 達成 | | | | | |
| 特別活動・その他 | 生命を尊重し、他者の気持ちを想像し、自分も人も大切にできる、お互いを思いやる態度を育てる。 | ・学校内、学校外など様々な交流活動を充実させ、実践を通して児童のコミュニケーション能力の向上と児童の自己有用感を高め、心を育てる。<br>・自他のよさを発見し、集団の中で認め合い高め合える温かい人間関係を構築する。<br>・ＳＤＧｓパートナー認定制度を活用して、持続可能な教育の充実を目指す。 | 本校SDGs認定にある同学年・異学年交流に加え、お互いを認め合える人間関係を構築し、自己肯定感や自尊感情を高める。 | 月１回の縦割り活動、朝の挨拶運動での交流活動、キラわくや音楽会などの全校行事で、異学年交流ができる場面を充実させる。交流後にハートフルカードなどで気持ちを伝えるなど、生活指導と連携して取り組む。体つくり集会では、たてわり班で関わりをもちながら、遊びに触れることができる。 | 目標 | 5回 | 10回 | 12回 | 0 | | 目標 | | | | | ハートフル活動の軌跡が、学年掲示板やハートフル通り（3階渡り廊下）で見ることができるようにする。掲示の様子などホームページに掲載し、活動の様子を発信する。 | 目標 | 3回 | 6回 | 7回 | 0 | 例年の取り組みに加えて「異学年での体づくり集会」を進められている。 | 今年度の反省を生かし、ハートフル活動の抜本的な見直しを進めていきたい。 |
| | | | | | 達成 | 5回 | 10回 | 12回 | | | | 達成 | | | | | | 達成 | 1回 | 3回 | 8回 | | |
| | | | オリンピアンやパラリンピアン、障がい者スポーツを支える人との交流や体験学習を年1回以上実施し、ボンティアマインドの醸成を図り、粘り強く努力する態度を育成する。 | 各学年1回以上の体験学習などを計画し、多様な世界を知り、あきらめずに努力し続ける大切さや、自他を認め高め合うことを、オリンピックパラリンピック教育を通して学ぶ機会をつくる。 | 目標 | 1回 | 2回 | 3回 | 0 | 体験学習などを通して多様な世界を知り、あきらめずに努力し続ける大切さを表現している。<br>多様性を認め、自他のよさを発見し、互いに思いやる姿が見られる。 | 目標 | | | | | 体験学習などを通して多様な世界を知り、あきらめずに努力し続ける大切さを表現している姿を発信する。<br>多様性を認め、互いを思いやる様子を発信する。 | 目標 | 1回 | 2回 | 3回 | 0 | 東京都「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を活用し、オリンピアン（バレーボール）による実演・講演を実施。また、陸上競技の講師を招聘して体験学習を実施。今後もダブルダッチの講師を招聘、体験学習を予定している。多様な世界を知り、そこで得た学びを継続していけるようにする。 | 外部より講師を招聘し、目標回数を上回る体験学習が行えた。多様な世界を知り、そこで得た学びを日常生活に取り入れることができている。今後も継続していく。 |
| | | | | | 達成 | | 2回 | 4回 | | | | 達成 | | | | | | 達成 | | 2回 | 4回 | | |

前年度の学校評価を活かして、４月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、特に重点となる各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を％で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の５割未満はＣ、８割未満はＢ、10割未満はＡ、目標超えはＯ(over)の標語を記入する。